

◎ 珍ちん譜ぶに就ついて

▲横濱貿易新報の勝繼手合として、一昨年の七月横濱聯珠會に於て熊澤嵐石君と對

局きよくした著者ちよしやの先番せんぱんは、偶然ぐうぜんにも其終局そのしゆうきよくが正せい方形ほうけい

となり、會長内田更石氏をして、思はず快哉を

連呼せしめた。下圖に示したのが即ち其折の戦

譜で、十六珠以後は「い、ろ」の四追勝である。



序じょ

幼名を『五目ならべ』と呼ばれた腕白小僧も、元服して名乗を『聯珠』と改めてからは打つて變つた利發者となり、七桂とか云ふ小難かしい經書を暗んじ、兵法は六聯三禁(六韜三略)の奥義を窮め、武術の競技會では靈腕を振つて黑白を爭ひ、今や武勇絶倫の大將として其名四海に轟き渡り、隨ふところの勇將猛卒その數多きが中にも高山互樂將軍と聞えしは『二聯』城を乗取つて其城主に補せられ、鬼三上の渾名を取つた雄石將軍は苦も無く『斜引』城を屠つて茲に根據を定め、驍名隠れも無き河合、内田の兩將軍は『嵐月』、『山月』の二ヶ城を併吞して、百尺竿頭『橫濱桂馬』の旗幟を翻し、高橋老軍師は『峽月』城に突進して其『手解』きを示し、淺井、三上の聯合軍